

2026年9月18日(金) 第19回ScholAgoraセミナー 「学術情報流通－明日を支えるシステムは何か？」



Japan Institutional Gateway(JIG)が拓く
日本の研究発信力強化
筑波大学との提携とAJUA設立

山之城チルドレス智子

Director, Academic Partnerships, East Asia, Taylor & Francis Group

今の時に求められる「発信力」とは何でしょうか？

AI技術の進化、オープンサイエンスの加速、そして研究評価——
研究環境は、かつてないスピードで変化しています。

本日は、筑波大学が発案した
Japan institutional gatewayについてご紹介させていただきます。

これからの時代に求められる研究発信方法の 1 つのオプションとして
具体的かつ実践的にお伝えします。

皆さまの研究が、より多くの人々に届き
より大きなインパクトを生み出すことを心より願っております。



We Are Taylor & Francis

- 200年以上の歴史を持つ、国際色豊かなグローバルな学術出版社
- イギリスに拠点
- ジャーナルと書籍出版の両分野において信頼されるインプリントを展開
- 20年以上にわたりオープンリサーチを推進材料科学のあらゆる分野において幅広い専門知識を持つ
- 経験豊富な出版担当者によるデータドリブンな出版戦略を提供
- 世界クラスの出版サービスを提供するための専門知識・リソース・インフラを保有



IF 6.6 (OA)



IF 4.7 (OA)



IF 2.7



IF 2.5



AI Agents4Science第1回オープンカンファレンス

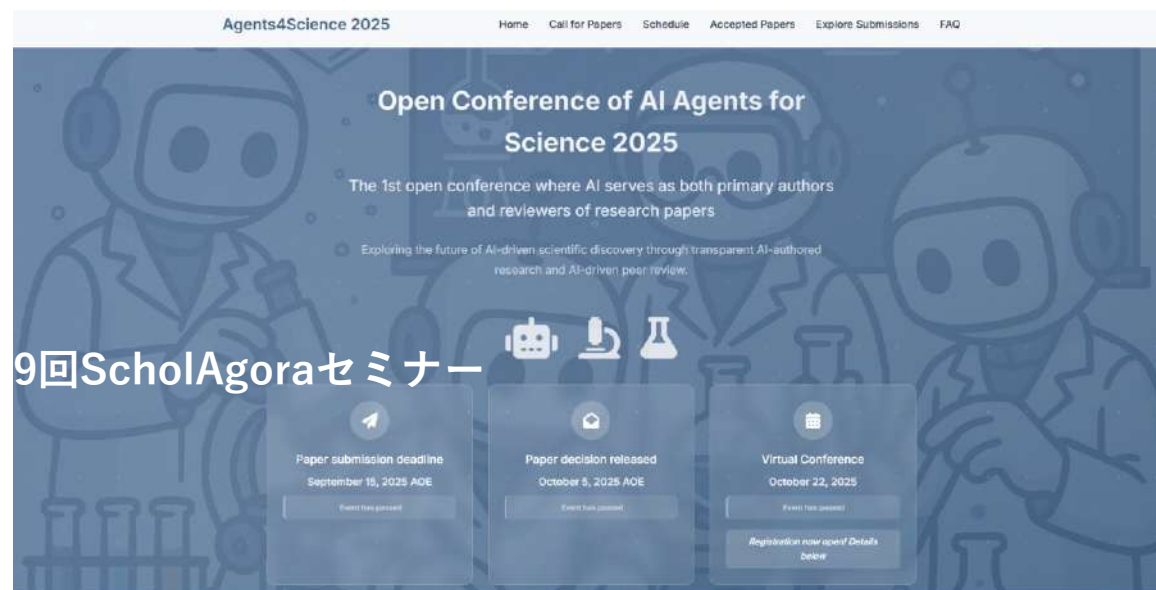
スタンフォード大学主催 AIの可能性と限界の両方を理解するための実験的アプローチ

[Open Conference of AI Agents for Science: 2025](https://agents4science.org/)

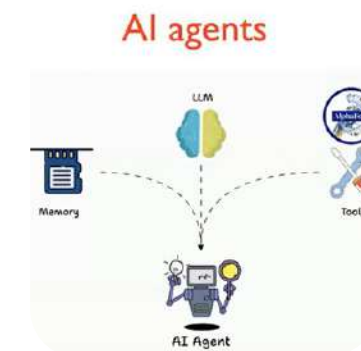
2025年10月22日:
初のAI著者・AI査読者による
科学会議

AIが論文執筆と査読の両方を実施

Nature Biotechnology編集長
ノーベル賞受賞者
諮問委員会に参加



9回ScholAgoraセミナー



Federico Bianchi



Owen Queen



Eric Sun



Nitya Thakkar



James Zou

学術情報のオープン化が進む中で生成AIの急速な発展

The changing landscape of research communication



投稿数が増加している

Growing submission volumes

大量の投稿は、AIツールの使用によって部分的に促進されている

出版スピードを速め、よりアクセスを増やすアクセシビリティへの要求ますます高まっている



研究公正・質・信頼性維持が極めて重大な課題

Critical need to maintain research integrity, quality, and trust.

査読者の不正も増えていることから
査読プロセスの透明化が重要な意味を帯びる

Author/Reviewer/Editor
Readerのbehavior
(行動パターン) に変化



AIの役割

The role of AI

AIを正しく、倫理ガイドラインに従って使用すれば、課題を解決できる可能性がある

作業効率を上げながら研究の質と信頼性を守ることが重要

→ 著者・査読者のAI使用

AIが利用統計に与える影響

図書館総合展でプレゼン Zero Click Search

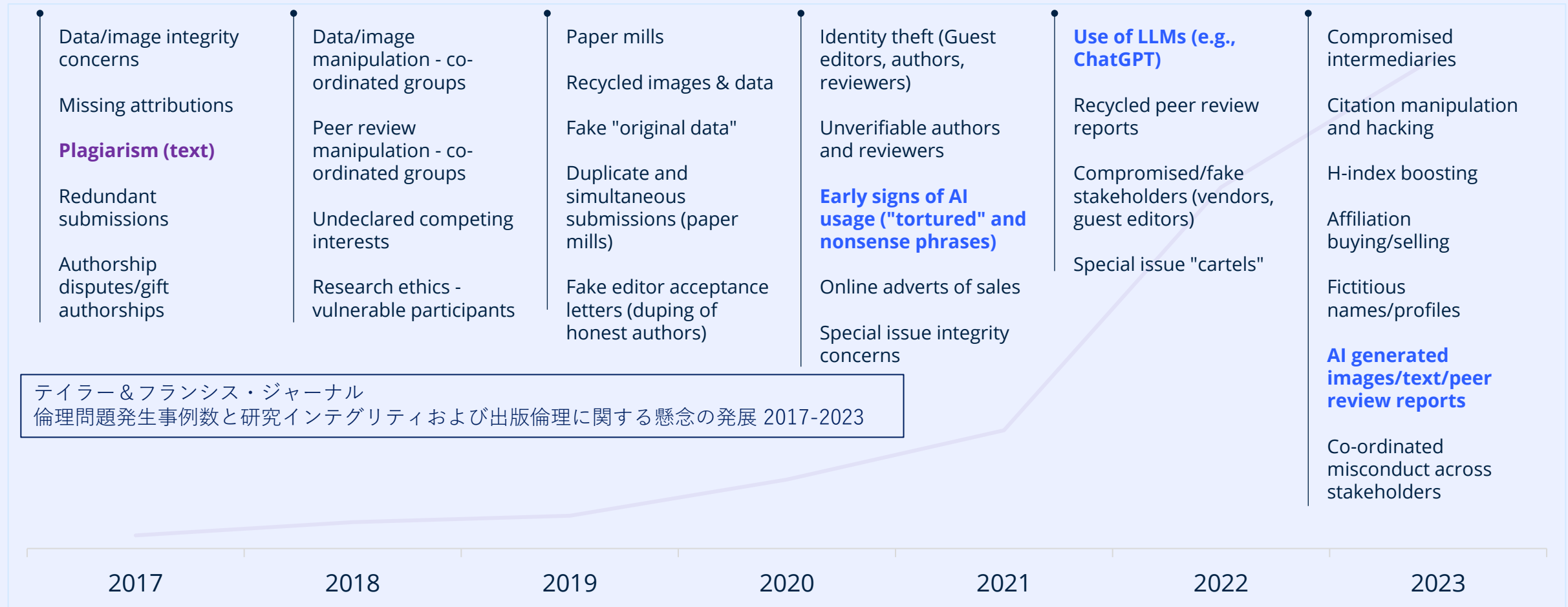
生成AI時代の学術出版：倫理問題発生事例件数の推移

Ethics case numbers and developing concerns

How rising case numbers are driven by deliberate misconduct

LLMの使用
ChatGPT

不自然な図 / あり得ない図
架空の参考文献
図のラベル誤り
本文中残されたプロンプト
査読者の不正なAI使用



Taylor & Francis 筑波大学MOUを締結 2026年7月



筑波大学
University of Tsukuba



Taylor & Francis
by informa...



Taylor & Francis社と協定を締結—学術出版プラットフォーム『JIG』を全国の研究者へ拡大—

AJUA All Japanese University Area開設

Japan Institutional Gateway

<https://f1000research.com/japan-institutional-gateway>





オープンな査読を受けて論文の質を高めたい
日本語論文でも国際的に成果を発信したい
(Scopus Index)

既存のジャーナルにはおさまらない萌芽的・学際的
領域の論文を出版したい





AJUA 日本拠点の研究者であれば
誰でも投稿できるようになりました

[Articles from gateway Japan Institutional Gateway - F1000Research](#)

筑波大学メインサポーター



筑波大学



京都大学



名古屋工業大学



東海大学



筑波技術大学



福井大学



富山大学



宇都宮大学



広島大学

Affiliate 機関
9 大学
サポーター

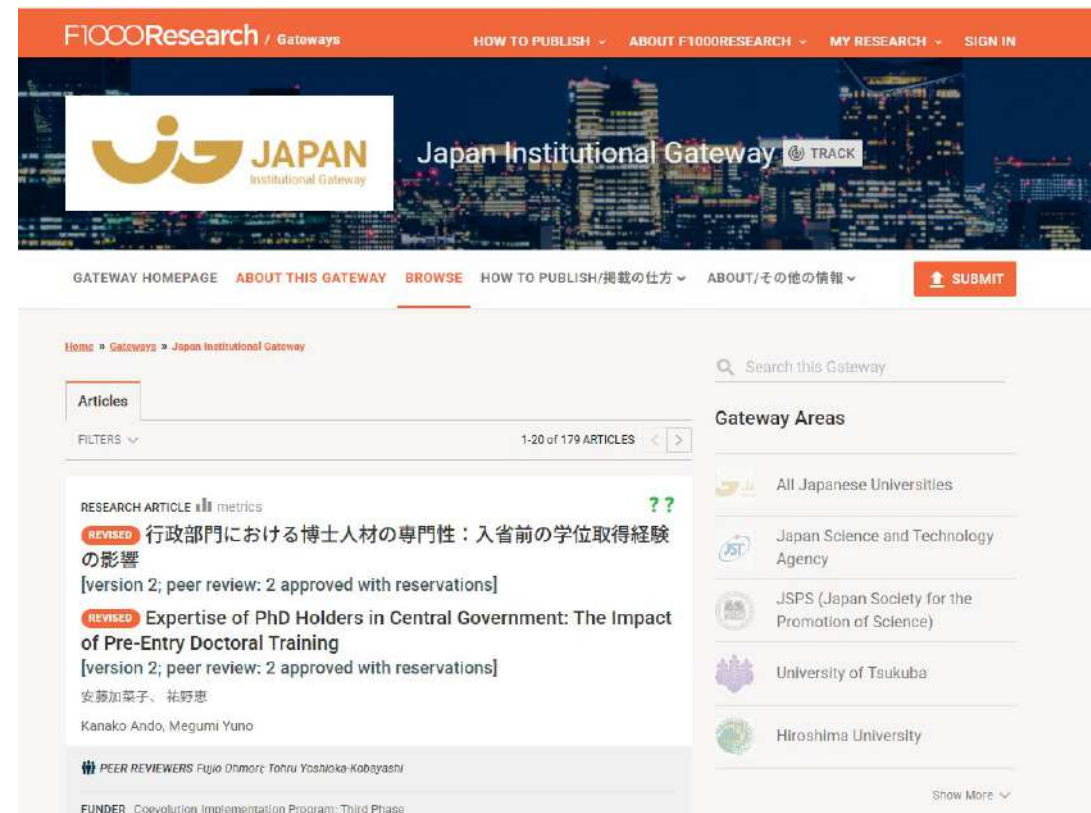
Funder エリア



Japan Science and Technology Agency



JSPS (Japan Society for the Promotion of Science)



Gateway Areas

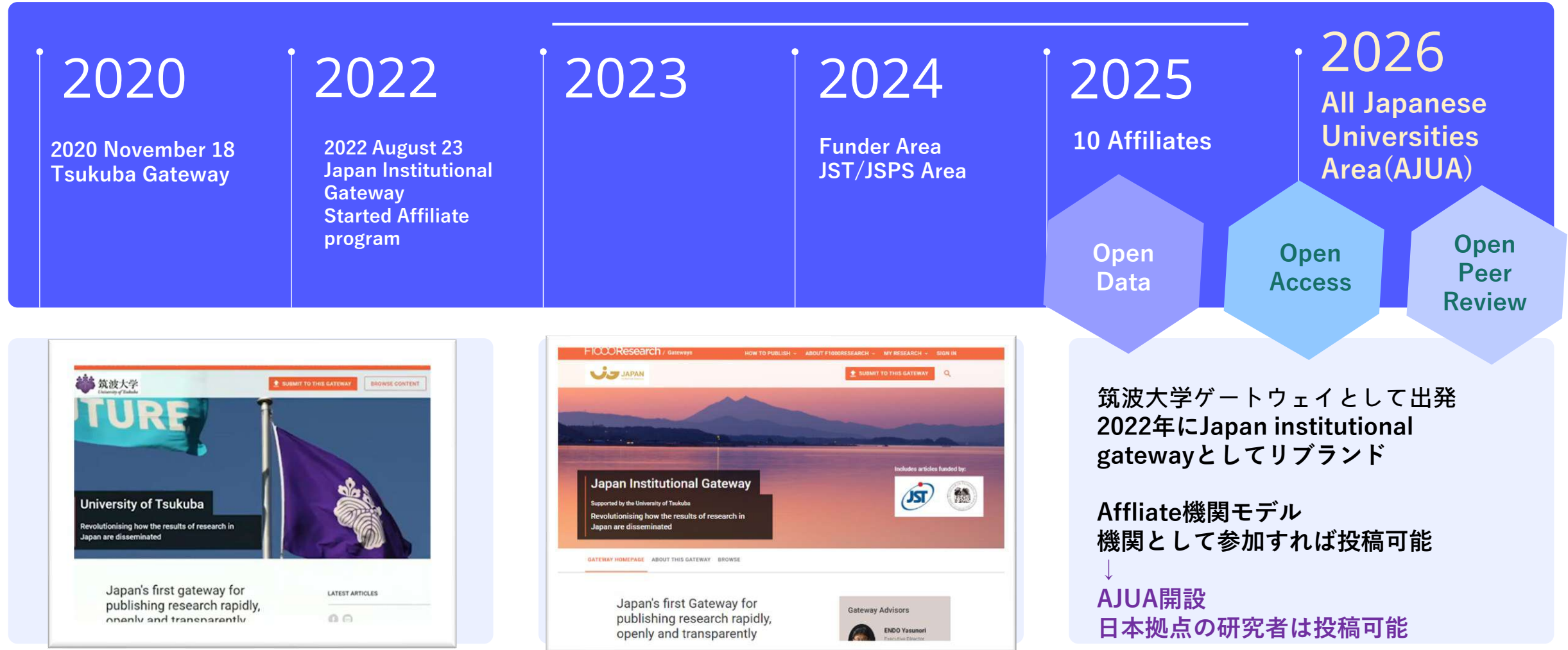


All Japanese Universities

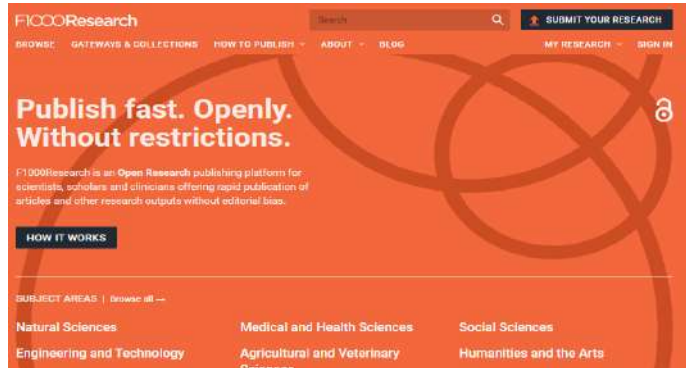
This is the Gateway Area for publications from any Japanese university or institute. [Read more >](#)



Japan Science and Technology



F1000 研究コミュニティのニーズから生まれコミュニティが必要な多様な機能を搭載 Publish – Review – Curate (Post Publication Peer review)

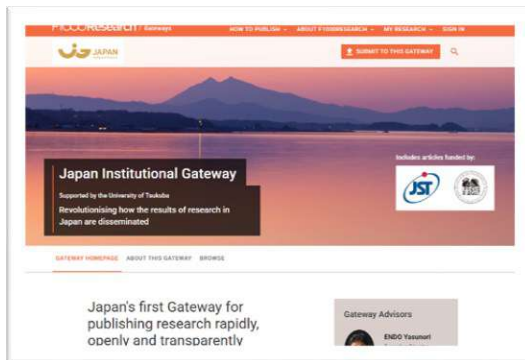


F1000Research
Open for Science

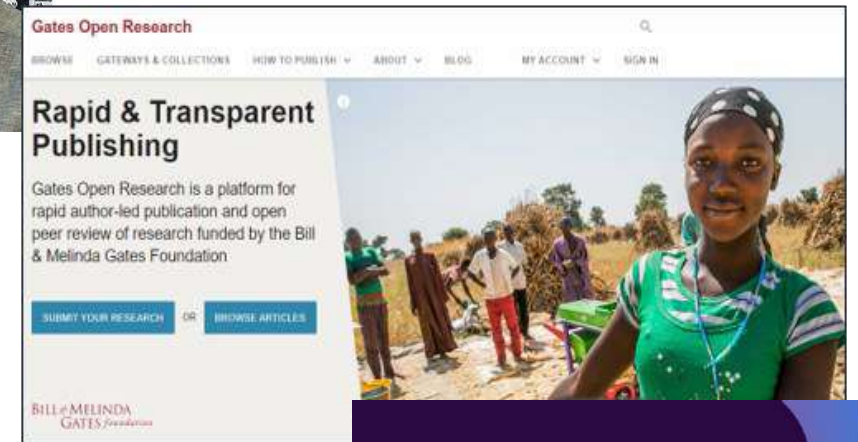
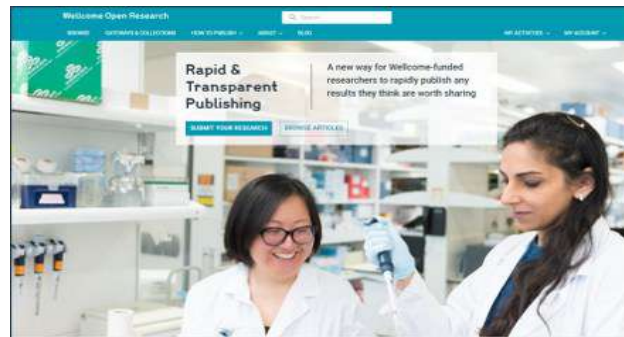
Open Data Open Access Open Peer Review



2000年 BioMed Central創設
2002年 Faculty of 1000創設



京都大学などの9大学
JST/JSPSが参加 (2026年9月)



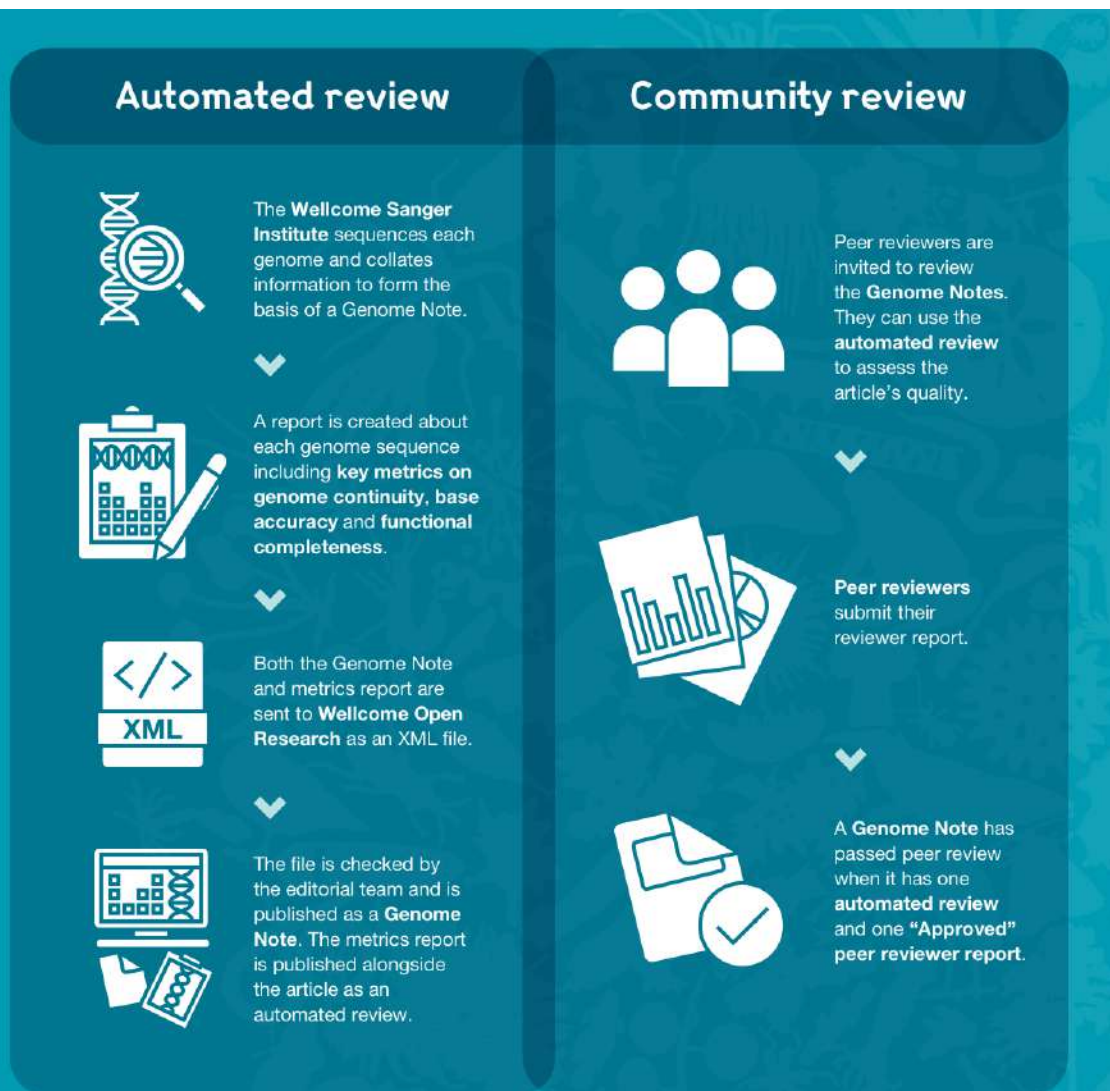
BILL & MELINDA
GATES foundation

AI査読パイロットゲノム分野

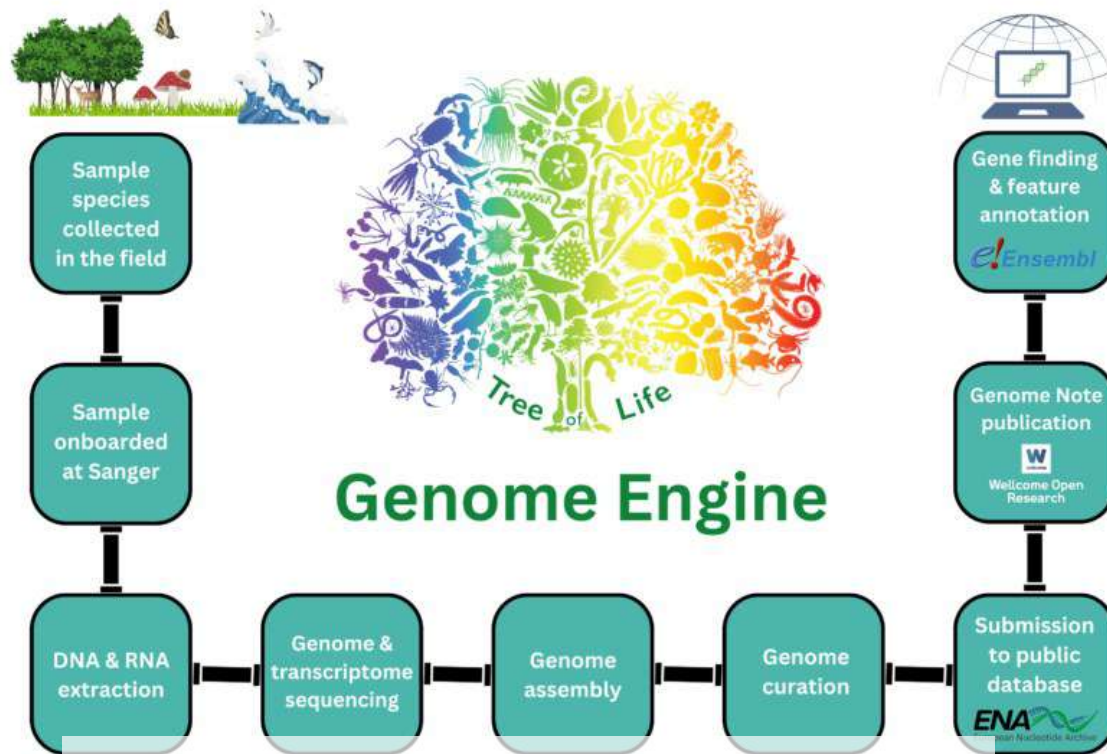
Data to paper : Tree of Life

特定のユースケースにおける先駆的なモデル

F1000Research
Open for Science



Wellcome Open Research



ゲノムノート出版プロジェクト

高度に構造化された大量のゲノムノート出版を開始

ハイブリッド査読プロセス

AIがゲノムノートを執筆 → XML形式で移管
人間による迅速レビュー → 出版

PubMedが「査読合格」として承認

研究コミュニティのIdeaから生まれた多様な機能搭載

ポスターやスライドもDOIが付与され、正式な引用対象となります。

F1000Research
Open for Science

多様なArticle Type

STEM分野

Research Articles
Brief Reports
Reviews
Policy Brief
Open Letter
Clinical Practice Article
Software Tool Article
Method Article
Systematic Review
Brief Report
Data Note
Method Articles
Study Protocols
Registered Reports
Reviews
Systematic Reviews
Living Systematic Reviews
Opinion Articles
Correspondence
Editorials



HSS分野 (社会科学・人文科学)

原著論文(Research Articles)
短報(Brief Reports)
総説(Reviews)
意見論文(Opinion Articles)
コレスポンス(Correspondence)
エディトリアル(Editorials)

Faculty memberによる
既発表論文の定性的評価を行う動機から誕生

著者の貢献後も可視化

Author contribution(s)

We are using the **CRediT** taxonomy to capture detailed author contributions, to facilitate recognition for all involved.

- | | |
|---|---|
| ☐ Conceptualization | ☐ Resources |
| ☒ Data Curation | ☐ Software |
| ☐ Formal Analysis | ☐ Supervision |
| ☐ Funding Acquisition | ☐ Validation |
| ☐ Investigation | ☐ Visualization |
| ☐ Methodology | ☐ Writing – Original Draft Preparation |
| ☐ Project Administration | ☐ Writing – Review & Editing |

RESEARCH ARTICLE



REVISED COVID-19対策と日本国憲法が保障する人権：新型インフルエンザ等対策特別措置法に着目して
[version 2; peer review: 2 approved]

REVISED COVID-19 measures and human rights guaranteed by the Japanese Constitution
[version 2; peer review: 2 approved]

旧題：COVID-19対策と日本国憲法：新型インフルエンザ等対策特別措置法に着目して

Previously titled: COVID-19 measures and the Japanese Constitution



出典：<https://f1000research.com/articles/10-230>
画像取得日：2026/4/29

オープンアクセス論文の影響

国内への影響:

日本の高校生が記事を読み筑波大学に入学
秋山教授と共同でJIG掲載論文を執筆中

国際的な影響:

海外の学生が英語要旨を読み留学を問い合わせ

海外からインタビュー依頼



COVID-19 対策と日本国憲法が保障する人権: 新型インフルエンザ等対策特別措置法に着目して

H Akiyama

F1000Research, 2021 - f1000research.com

2020年3月以来,日本においては新型インフルエンザ等対策特別措置法がCOVID-19対策の中心的な役割を果たしてきた.同法に基づき,休業や営業時間短縮の要請・指示・命令,外出自粛要請が行われてきた.これらには日本国憲法が保障する営業の自由や移動の自由を制限する側面がある.そこで本稿は,「COVID-19対策としての休業や営業時間短縮の要請・指示・命令及び外出自粛要請に,憲法上の制約もしくは要請はあるか」をリサーチ・クエスションとして検討を行った.また,2021年2月に罰則が導入されたことを踏まえ,「罰則の

さらに表示

☆ 保存 99 引用 関連記事 全2バージョン 88



Scopus

Book

COVID-19 measures and human rights guaranteed by the Japanese Constitution

(COVID-19対策と日本国憲法が保障する人権: 新型インフルエンザ等対策特別措置法に着目して)

COVID-19対策と日本国憲法が保障する人権: 新型インフルエンザ等対策特別措置法に着目して

Documents 88

Faculty of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba, 305-8573, Japan

Show all information

View PDF Full text Export Save to list

Documents Impact Citations Similar documents

Abstract

Since March 2020, the Act on Special Measures for Pandemic Influenza and New Infectious Diseases Preparedness and Response has been a significant statute in dealing with COVID-19 in Japan. The Act mandates requests, instructions and orders for business suspension and shortened business hours, as well as stay-at-home requests. These measures limit freedom of movement and establishment, guaranteed rights under the Japanese Constitution. This article poses the following research question: "Does the Japanese Constitution allow measures against COVID-19 such as requests, instructions and orders for business suspension and shortened business hours, and stay-at-home requests?" It also asks: "Are measures with penalties allowed by the Constitution?" Given the fact that the penalties were introduced in February 2021, this paper examines constitutional concepts that guarantee or limit individual freedoms. Concepts that guarantee individual freedoms include freedom of establishment and movement, these freedoms derive from the constitutional values of freedom to choose one's occupation and choose and change one's residence (Art. 13) and the right to own or hold property (Art. 29). Concepts that limit individual freedoms include the right to life (Art. 17), workers' rights and public health (Art. 12), and public welfare (Art. 12). Individual freedoms that derive rights to life, workers' rights and public health, and public welfare may not be guaranteed. This paper argues that the Constitution allows the measures against COVID-19 limiting freedom of establishment and movement from the perspective of the right to life, workers' rights, public health, and public welfare, and the measures to encourage the voluntary stay-at-home from COVID-19. It also argues that the

1,000 persons
Share

Abstract

Funding details
Corresponding authors

査読コメント 日本語論文 査読例

※
英語論文も
投稿可能

査読コメントも出版されDOIが付与され引用が可能で、可視化されます。

著者と査読者のやりとりを、若手研究者に教育目的でみていただくことを推奨しています。

Back to all reports

Reviewer Report

191 Views

07 Apr 2021 | for Version 1

Hajime Yamamoto, Keio University, Tokyo, Japan

Cite this report

Responses (1)

APPROVED

本論文は、Covid-19の感染拡大に対応して「新インフルエンザ等対策特別措置法」に基づいて行われた政府による様々な要請や指示を、「憲法の枠組み」で捉えたとき、従来の枠組が不十分だと著者が評価する部分を摘示し、よりよい、と本論文著者が考える憲法学の枠組を提供しようとするものである。

Covid-19をめぐる問題は、憲法学にとっても最新かつ最重要な諸問題を提起して

本論文の主張の核心は、憲法の枠組をCovid-19対策で展開されてきた諸措置と

個人の自由を保障する概念」としてだけでなく、人権制限の契機として作動しうる概念としても位置

Back to all reports

Reviewer Report

146 Views

26 Apr 2021 | for Version 1

Masahiro Sogabe, Graduate School of Law, Kyoto University, Kyoto, Japan

Cite this report

Responses (1)

APPROVED WITH RESERVATIONS

本論文は、「COVID-19 対策としての休業や営業時間短縮の要請・指示及び外出自粛要請に、憲法上の制約もしくは要請はあるか」をリサーチクエスチョンとして、憲法学の通説に対する批判も交えつつ、この問いに取り組んでいる。

本査読者の全般的な評価は、基本的にはすでに査読コメントを残している山元教授と同様であるが、以下の4点について特に指摘しておきたい。

第一に、筆者は、「公共の福祉」対「個人の自由を保障する概念」に代えて、「個人の自由を制限しうる概念」として捉えている。しかし、通説も、「公共の福祉」は抽象的な概念として捉えられ、具体的な対抗利益を明確にし、その都度の「公共の福祉」の内実を明らかにすべきことを要求しているものであるから、こうした問題設定の修正が何をもたらすのかは明らかではない。

第二に、筆者は、生存権が具体的な権利

Back to all reports

Responses (1)

AUTHOR RESPONSE 21 Apr 2021

Hajime Akiyama, Faculty of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba, 305-8571, Japan

山元先生

有益なご指摘をいただき、感謝申し上げます。

第一に、生命権や生存権を「個人の自由を制限しうる概念」と捉えることについて、従来「公共の福祉」の利益と考えられてきた概念を「人権」という言葉に言い換えたにすぎないと指摘される可能性をお示しいただきました。筆者は、まさにこの捉え方の変化にこそ大きな意味があると考えております。従来「人権＝自由」と捉えられてきたように思いますが、自由以外の人権の側面を改めて示すことで、山元先生も言及されているように「従来の近代立憲主義的人権概念を乗り越え」る、新たな人権概念を構想する基盤となると存じます。そのため、「個人の自由を制限しうる概念」を「人権」概念に組み込むことには一定の意味があると考えております。

第二に、人権が個人の自由保障と自由制限双方の正反対な機能を含むと捉えることにより、人権概念が不安定になるとの批判を受ける可能性をご指摘いただきました。筆者は、COVID-19という自然の脅威により、自由を基盤とする従来の人権概念の限界が明らかになっていると考えており、人権の捉え直しが必要である

Responses (1)

AUTHOR RESPONSE 14 Sep 2021

Hajime Akiyama, Faculty of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba, 305-8571, Japan

曾我部先生

重要なコメントをいただき、感謝いたします。

第一に「公共の福祉」と「個人の自由」の分類を、「個人の自由を保障する概念」及び「個人の自由を制限しうる概念」に整理し直す意義についてコメントをいただきました。新たな分類を構想した背景には、「公共の福祉」と「個人の自由」の分類では、人権概念の十全な理解が困難なのではないかとの問題意識があります。人権と自由はほぼ同一視されてきた傾向がありますが、人権を十分に理解するためには、自由権だけでなく、社会権も含めて人権を捉える必要があると考えております。感染症対策との関連では、自由の制限を人権の制約原理と捉えられる公共の福祉でなく、憲法の一義的な価値である人権の一部として位置付けることも可能であるはずでです。こうした新たな捉え方により、自由を相対化し、人権のより深い理解を目指したいと考えております。

第二に、具体的権利説への批判を乗り越えることができていないのご指摘をいただきました。第2版では、抽象的権利

査読者の名前・コメント（DOI付）可視化されている

[Home](#) » [Browse](#) » [Chinese culture became more individualistic: Evidence from family...](#)

BRIEF REPORT

REVISED Chinese culture became more individualistic:
Evidence from family structure, 1953-2017
[version 3; peer review: 2 approved]

✉ Yuji Ogiwara  1-3

[+ Author details](#)

 Check for updates

 ALL METRICS

4403

 VIEWS

589

 DOWNLOADS

 Get PDF

 Get XML

 Cite

 Export

 Track

 Share

Open Peer Review

Reviewer Status   

Reviewer Reports

Invited Reviewers

1

2

Version 3
(revision)
25 May 23


read

Version 2
(revision)
25 Apr 23


read


read

Version 1
04 Jan 23


read

1. Han-Wu-Shuang Bao , The University of Manchester, Manchester, UK
2. Eunsoo Choi , Korea University, Seoul, South Korea

著者と同機関の研究者は
査読できないルール

Affiliate機関から
信頼のできる査読者を
Recruitできないか検討中

Visibility & credit for reviewers:

- Co-reviewing 共同査読システム
- 査読コメントにもDOI
- ORCID ids : Fake reviewer防止

真の査読は出版後に始まる Comment on this article機能

[Home](#) » [Browse](#) » [Why Are Christian Schools Popular in Japan Despite the Small Number...](#)

RESEARCH ARTICLE

REVISED Why Are Christian Schools Popular in Japan Despite the Small Number of Christians? : A Case Study of a Catholic Girls' Junior and Senior High School [version 3; peer review: 2 approved]

✉ Mikiko Yokoyama ¹, Yuuki Matsui², Junko Teruyama¹, Yoshihiro Goto ³

[+ Author details](#)



This article is included in the [Japan Institutional Gateway](#) gateway.

Abstract

The proportion of Christians in Japan's population is very small (0.7%). In contrast, Christian-affiliated schools are numerous and enjoy widespread popularity. As previous studies suggest, Christian schools—especially those for girls—are often associated with positive social images (such as being “refined” or “upper-class”), particularly among young women, and this association has been considered one reason for their popularity. However, much of the existing research is based on statistical analysis, literature review, or quantitative methods, and few studies have employed detailed qualitative approaches.

Some earlier studies have applied Pierre Bourdieu's theory of class reproduction to analyze the popularity of Christian girls' schools, but they often frame this in terms of marriage as a pathway to upward social mobility—a perspective that does not fully align with the values of today's youth, who tend to place greater emphasis on their individual careers. Therefore, this paper focuses on one Christian-affiliated integrated junior and senior high school for girls (referred to as School X) and explores the reasons for its popularity through interviews with its alumni. Unlike previous research that has been constrained by gender biases, this study examines the popularity of Christian schools from the perspective of cultural capital. In particular, it emphasizes the role of cultural capital in the school's values and the founding mission of the school.

The findings reveal that the students perceived School X's education as directly contributing to the acquisition of various forms of capital and habitus, as defined by Bourdieu (although not articulated in such terms by the students themselves).

 Check for updates

 ALL METRICS

800

 VIEWS

80

 DOWNLOADS

 Get PDF

 Get XML

 Cite

 Export

 Track

 Share

Open Peer Review

Reviewer Status   

Reviewer Reports

Invited Reviewers

	1	2
Version 3 (revision) 19 Feb 26	 read	
Version 2 (revision) 29 Jan 26	 read	
Version 1 09 Sep 25	 read	 read

1. Rudy Pramono, Universitas Pelita Harapan, Harapan, Indonesia
2. Matthew H Lee , Kennesaw State University, Kennesaw, USA

出版された論文に
読者がコメントができる

Comments on this article

All Comments (0)

[Add a comment](#)

Open Peer Review

Reviewer Status  



Reviewer Reports

Invited Reviewers

1

2

Version 2
(revision)
08 May 25

Version 1
21 Sep 22



read



read

1. Mélanie Debais-Thibaud, Université Montpellier, Montpellier, France
2. Dan Larhammar , Uppsala University, Uppsala, Sweden
David Lagman , Uppsala University, Uppsala, Sweden

Comments on this article

All Comments (0)

Add a comment

Sign up for content

Email

F1000の公開査読



Approved



Approved
with
reservations



Not
approved

これはF1000独自の査読判定マークです

Version1で
2名の査読者が
✓ (Approved) 判定を出して査読通過しています。

査読者の名前が公開されていて
ORCID IDが紐づけされています

F1000では著者が査読者を推薦もできるので
憧れの先生で実名で査読され、太鼓判を押してもらうことができます
筑波大学から投稿した矢作先生のコメントです↓

矢作直也（医学医療系准教授）のコメント

今回投稿させて頂きました論文は、これまでに5つの雑誌から掲載を拒否されてきた論文でしたが、筑波大学ゲートウェイではスムーズに掲載が決まり、レビューアーからも高いご評価を頂くことができました。また、「この論文をぜひ読んで頂きたい」という方々をレビューアー候補として編集部へ推薦させて頂き、結果的にそういう方々に実名でレビューして頂いたのも大変幸せな経験でした。「rejectされない安心感」「読んで欲しい方にレビューしてもらえる」この2つのメリットは非常に大きく、ちょっと病みつきになりそうです。

DOI: 10.12688/f1000research.27532.2



Scopus
PubMed
DOAJ etc

- ①Approvedが2
- ②Approvedが1 + Approved with reservations 2
査読通過とみなされScopusなどへのIndexが開始

Editor in Chief, Editorはいない
Author, Reviewerのみ

Visibility & credit for reviewers:

- Co-reviewing 共同査読システム
- 査読コメントにもDOI/引用できる
- 査読者はDOIを履歴書などに記載して業績として報告
- ORCID ids : Fake reviewer防止

Work Flow

Open Data · Open Code オープンディスカッション

Publish – Review – Curate (Post Publication Peer review)

公開後にオープンピアレビュー
査読者・査読プロセスの見える化

著者が改訂

Open Dataが必須
出版前チェック後直ちに公開

出版（公開）
DOI の付与
Google Scholar;
accessible & citeableに索引

透明性のある公開査読
(ユーザーコメント機能)

論文改訂
REVISE

査読通過後
索引される

✓ Approved
? Approved with reservations
✗ Not approved

✓ ✓
✓ ? ?
Scopus
PubMed
DOAJ etc

JIG APC
2026
Price

Article Processing Charge – APC

コストの透明性を重視

APC価格が抑えられている

Category A

Includes:
Data Notes,
Correspondence,
Genome Notes, Case
Studies

\$1003^{*†}

Price breakdown ▼

Category B

Includes:
Study Protocols,
Registered Reports,
Software Tool Articles,
Brief Reports, Policy
Briefs

\$1268^{*†}

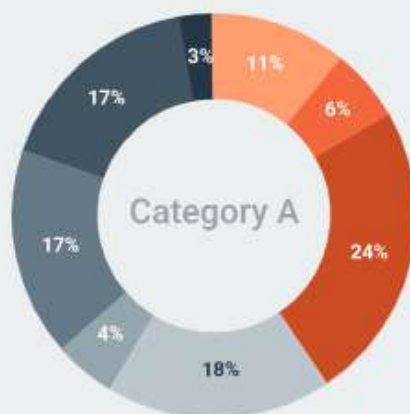
Price breakdown ▼

Category C

Includes:
Research Articles, Method
Articles, Antibody Validation
Articles, Reviews, Systematic
Reviews, Clinical Practice
Articles, Case Reports, Opinion
Articles

\$1758^{*†}

Price breakdown ▼



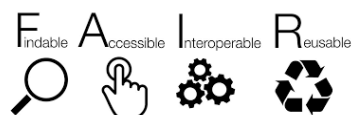
Community development	11%
Submission to pre-publication checks	6%
Pre-publication checks to publication	24%
Peer review management	18%
Services after publication	4%
Platform development	17%
Marketing and business development	17%
Author and user support	3%

Community development	11%
Submission to pre-publication checks	6%
Pre-publication checks to publication	24%
Peer review management	18%
Services after publication	4%
Platform development	17%
Marketing and business development	17%
Author and user support	3%

日本の即時オープンアクセス方針とJIG



JIG論文を再利用し
英語書籍出版することも奨励



【Japan Institutional Gateway(JIG) = 即時オープンアクセス方針の相互性】

- ✓ 基礎データ：機関レポジトリにて指定のCCBYライセンスでデータ公開することを推奨(Open Data)
- ✓ 論文；JIGで出版 (Open Access + Open Peer review)
- ✓ CiNiiで検索可能とするための自動転送について要検討・調整

※基礎データについて、現在CC0 Public Domain DedicationもしくはCC-BY 4.0 Creative Commons Attribution Onlyのライセンスを使用していれば日本の機関レポジトリで公開されたデータをOpen Dataの要件を満たしているとしJIG投稿の受付を行っています。

JSAI 2026 人工知能学会大会でのパネルディスカッション

[査読は「ほぼ破綻」している——生成AI時代の研究成果公開を、もう一度設計し直す：JSAI2026 企画セッション「生成AI・プレプリント時代における研究成果公開の再設計」開催報告 | 一般社団法人 情報科学技術協会 \(INFOSTA\)](#)

360年ぶりの、非連続な変化のただ中で



林和弘様の発表

書く・読む・査読する——すでに全プロセスにAIが入り込んでいる以上、論点は「使う／使わない」ではなく、「どこで人間が責任を持ち、何を透明化し、どのプロセスを記録するか」だ

信頼形成のかたちは分野ごとに違う
(生命科学の倫理志向、物理・数学の30年来のプレプリント文化、人文系のモノグラフ文化、工学の特許・再現性)



Taylor & Francis Group
an **informa** business



AI時代におけるオープンサイエンス

プロセスの透明性
迅速な出版
公開後の検証
再利用



Taylor & Francis



Routledge
Taylor & Francis Group



CRC Press
Taylor & Francis Group

PeerJ

F1000

Dovepress
Taylor & Francis Group